こども発達支援センター青空　第７回　ご家族向け研修

正しい評価の仕方と指示の出し方について

～こどもの力を正確に評価する方法と、
こどもが達成しやすい指示の出し方について学びます～

こども発達支援センター青空
藤原　真由美

こどもはたくさんの人たちとの関わりの中で成長している

「こどもの健やかな成長を願う」この思いは同じだけど…

- 人によってこどもの評価が違う（過大評価・過小評価など）
  ↓
- 目標設定がバラバラ
  ↓
- 関わり方や支援方法がバラバラ
  ↓
- こどもは混乱

忙しい日々の中で偏った見方になってしまいがち

- できないことや困った行動ばかりに目がいく

- 本人の能力以上のものを求める
  →失敗体験につながってしまう

評価は支援のスタート

- こどものもっている能力や可能性を明らかにする
- 目標をはっきりさせる
- 周囲の人との共通理解
- 支援の効果や妥当性の判定

本人に合った
関わりへと導く！

評価

～こどものことをよく知ろう～

評価とは

☆本人のことを理解すること

特性の理解

- 社会性の特徴
- コミュニケーションの特徴
- 想像力の特徴
- その他
  感覚について
  能力のばらつき

こどもの理解

- 得意なこと
- 苦手なこと
- 好きなこと
- 嫌いなこと
- 興味、関心

診断と評価

- 診断・・・その人が発達障がいであるかどうかをみる
  （診断ができるのは医師のみ）
  ➡ 特性に合わせた支援を受けるため
- 評価・・・一人ひとりの特徴や状態を見る
  ➡ 支援の中身をこどもや家族のニーズにあったものにするため

評価の種類

専門職などが行う

- フォーマルな評価

  標準化された心理検査（客観性・共通理解）

  - 発達検査／知能検査　（新版K式発達検査、WISC-Ⅳ、WEIS-Ⅲ）
  - 教育診断検査（PEP-3）
  - TTAP（移行アセスメントプロフィール）　など

誰でもできる

- インフォーマルな評価

  毎日の暮らしの中で子どもの様子を観察し、
  子どもの能力や状態を把握する

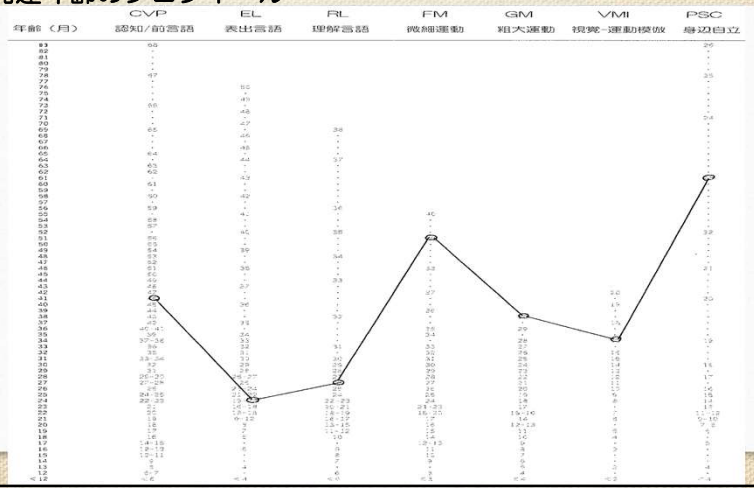
フォーマルな評価　　PEP-3

- 行動の特徴や、発達のアンバランスな部分（得意なこと・苦手なこと）を明らかにし、支援の手掛かりを得ることを目的としている
- 合格・芽生え・不合格のスコア

「学びたい！」「今から学ぶ行動」

学ぶ準備ができてるよ！

発達年齢のプロフィール



インフォーマルな評価

毎日の暮らしの中で、活動を行っている様子をよく観察して、こどもの能力や状態を把握する

- 生活調べ表・・・生活のリズムを知る
- 生活スキルチェックリスト
  ・・・今できている段階を知る
- 好き嫌い表・・・興味関心を知る
- 課題分析表・・・行動を1つ1つ分解し環境を整えて
  自分でできることを増やす

インフォーマルな評価の方法

- 自由時間や自然な場面で全体的な様子を観察
- 客観的に行動を観察
  行動とは『見える・聞こえる・数えられるもの』
  例 ✕弟に優しくできる ○弟におもちゃを2回貸せる

- 周囲との相互作用に着目する・・・どんな場面で、誰と、何を、どのように
- できること、できそうなこと、得意、興味のあることを見る

評価の項目①

- 社会性：人への意識の向け方、人との関係の取り方
- コミュニケーション
  理解の度合い…大人の指示は理解しているか
  表現の仕方…要求、拒否、困っている時の表現
  やり取りの仕方…一方的か、相互的か
- こだわりの行動と想像力の特徴、独特の思考

評価の項目②

- 注意の向け方
- 感覚の過敏さ（光、音、におい、肌ざわり等）
- 不安や脅迫的な言動
- 体の動かし方、手先の不器用さ
- 学習に関するスキル（技能的にできるかどうか）と学習態度
- 余暇活動、自由時間の過ごし方
- 行動上の問題の原因、きっかけ
- 医療的ケアの必要性

今後に繋げるために

- 効果的な支援の方法を考える
- 思い込みで判断しない・・・　過大評価・過小評価
- 子どもの立場で肯定的な視点で見る

水遊びがやめられない ⇔ 水遊びが大好き
集団活動に参加できない ⇔ 一人で過ごすことができる
飛び出しや走り回る ⇔ ストレスや混乱を行動で伝えようとしている

課題分析

～客観的に評価し、目標を考える～

課題分析とは

- 評価の方法の一つで、
  支援する活動を、細かいステップに分け
  具体的に、客観的に行動を書き出すこと

課題分析の手順

- 分析：・ひとまとまりの行動をより細かく、一つ一つの「単位行動」に分析
- 表作成：・活動の流れにしたがって並べる
- 観察：・その行動のどの部分ができていないのかを観察
- 目標設定：・自立のために何が必要かを考える

課題分析表：着替えをしよう

単位行動	評価	現在の援助方法	自立のための配慮
きがえの場所にいく	△+		
シャツを脱ぐ	○		
ズボンを脱ぐ	○		
シャツの前後を確認する	△-		
シャツを被って頭をだす	△+	声かけ	動作のイラスト
腕を通す	△+	見本を示す	動作のイラスト
ズボンの前後を確認する	△-	前後の確認はしないため、そのまま持って履けるように置く	ズボンの前にマークをつける
足を一本ずつ入れる	○		
腰まで引っ張ってあげる	△	あげにくそうにしており半分介助	ウエストにゆとりのあるズボンにする

○　・・・１人でできる
△+　・・・見本があればできる、少し手伝いがいる
△　・・・上手くできない、部分的にできる
△-　・・・ほとんど手伝ってもらう
×　・・・できない、やらない

評価から

- 一人でできることを手伝ってしまっていないか
- 一人でできないことを「やってね」と無理にさせようとしていないか
- できると思っていたことでも、場面や相手によってできなくなったりしないか

ひとりでどれだけできるのか、
何ができて何ができないのか、
どの部分ができてどの部分ができないのか

目標を設定するときのポイント

- 興味、関心があるか
- 強み（得意なこと）が活かされているか
- スキルがあるか
- 本人にとって意味があるか
- 自立して行える可能性があるか
- 生活の中で役立つか

支援する部分をしぼり、計画を実施

- 自立してできるための配慮
  - 取り組む場所の構造化（何をするのかわかりやすい）
  - 日常の生活の中に組み込む
  - 自信を持ってできるように確認できる手がかりを用意
- 自立のために配慮した中で、活動を再び実施

評価から支援へ

～得意なことを活かして、苦手なことを補うために～

評価から考えられること

- できること、できそうなことから取り組む（合格・芽生え）
- 得意なことを活かし、苦手なことを補う
- 理解のレベルに合わせて、その人に「わかる」ようにする
- 嫌なことやわからないときの「表現」の方法を教える
- 安心して過ごせる環境を用意する
- 見とおしのもてる生活
- ストレスや混乱の原因を取り除く

得意なことを活かし、苦手なことを補う

アンパンマンが大好きな男の子

アンパンマンの表情カードで感情を理解し、
人の表情に興味をもつように！

アンパンマンの
手洗いカードや
お勉強カードを見て
スムーズに行動できるように！

こんな場合どうする？

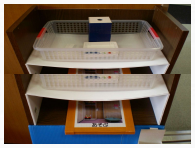
遊びが終われない
次の活動に行けない

➡ 次に何があるのかを分かるようにする
いつできるのかわかりやすく伝える

次になにがあるのか
わからない？
次に遊べるのがいつなのか
わかりにくい？

見とおしをもてるようにする

こどもに合わせた
スケジュール等の活用



こんな場合どうする？

遊びが終われない
次の活動に行けない

片づける場所・
終わりを明確にする

どこに片づけたらいいか
わからない？
どうなれば終りなのか
わかりにくい？

終わりを明確にする

こどもに合わせた
終わり・お片づけの方法

お片づけ箱

蓋つきお片づけ箱

お片づけ場所　ラベリング

コミュニケーションの評価

理解

- 言葉だけでわかっているのかどうか
- 目の前に実物がなくても言われたものをイメージして持続できるか
- 2段階、3段階の指示でも行うことができるのか

かばんをロッカーに入れて
スモックに着替えて
トイレ行ってね

…

客観的に評価する

理解

その子にとって分かりやすいのは？

- 言葉でわかる
- 絵や写真でわかる
- サインでわかる

かばんをロッカーに
入れて
スモックに着替えて
トイレ行ってね

コミュニケーションの評価

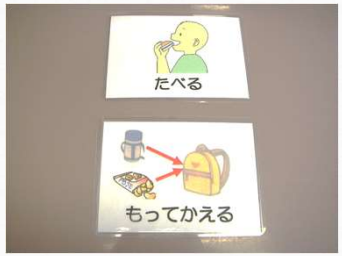
表現

- どんな方法で
  （言葉、文字、身振り、絵、発声等）
- 何のために、どんな意図で
  （要求、注意喚起、拒否、社会的習慣等）
- どんな場面で
- 誰に

自発であるかどうか

「拒否」をどうやって伝えている？

「いりません」カードや視覚的手がかり



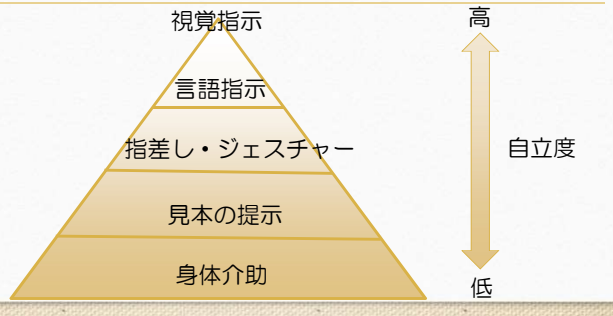
「いりません」の入れ物

指示の出し方

～こどもが達成しやすい教示方法～

教え方はいろいろ

- 介入の度合いを減らして自立度を高めていく



身体介助

- 手を添えたり、体の向きを変えるなど最小限の身体的な介入

こどもが自分でやっているかのように
こどもの後方から手を添える

見本の提示（モデリング）

- 実際にやってみせる
  同時モデリングと時間差モデリング（先に見せる）がある

指差し・ジェスチャー

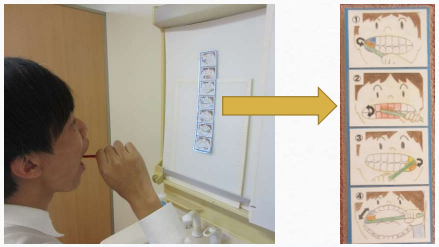
- 具体的に注目すべき場所を指し示す
- 身振り手振りでやり方を示す

言語指示

- 簡単な声かけ　「やってください」「〇〇してください」

視覚指示

- 写真や絵、文字等の視覚的な手がかりを見て行動できるようにする



自分で気づき
１人でできることを
目指す！

自立の大切さ

- １人でできるということは
  指示がない、ストレスがない
  達成感を感じられる
  自信がつく
- これ（支援ツール）があれば安心！
  ひとりで、どこでも、いつでも　できる！！

１人ひとりにあった
自立の形がある

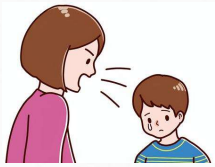
よい教え方

- 情報が整理されている（始まりと終わりが明確）
- 視覚的な指示がある（視覚的な手がかりに気づかせる）
- 褒めるタイミング（２５%ルール）
- どの行動がいいのか、わかる、伝わる褒め方

※完全に身についていないときに“褒める“のをサボると消えてしまう

よくない教え方

- 教え方が場当たり的
- 言葉が多すぎる
- 否定的な言葉、あいまいな言葉
- 失敗させてから叱ったり改めさせようとすること

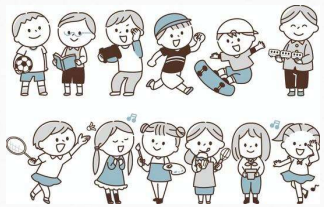


青空でしていること

- 評価からスタート
  発達検査～支援計画～療育～次の計画～後期の計画
- 療育中も評価の視点をもって関わる
  設定した課題の理解度は？
  自分でできる！を引き出す関わりは？
- 活動の振り返り（毎回の評価をスタッフ間で共有）
  ○・△⁺・△・△⁻・／　次回に向けて
- ご家族との協働

いかにたくさんの「強み」を見つけられるか

- 好きなことは？
- 得意なことは？
- 興味のあることは？
- できることは？
- できそうなことは？
- 落ち着いている時はどんな時？



まとめ

- 評価は支援のスタート！
- 何を教えるのか、何を期待されているのかが明確になっている必要がある
- 簡潔に、視覚的に、具体的に、肯定的に教える

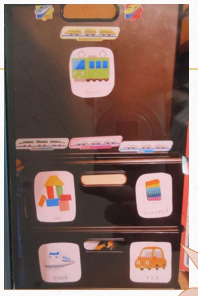
次回の研修案内

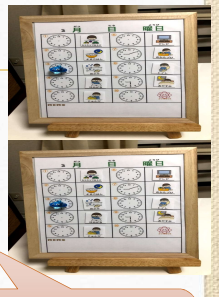
次回のご家族向け研修会は「実践報告会」です。
ご家族の皆様の取り組みを報告していただきます。

- 日時　１２月５日（月）１０時～11時30分
- 場所　稲スポーツセンター１階　会議室
- 料金　１，４００円

※感染症対策を行い、会場でさせていただきます。

おうちでの工夫を共有しましょう！





アイテムや写真等を
もってきてください